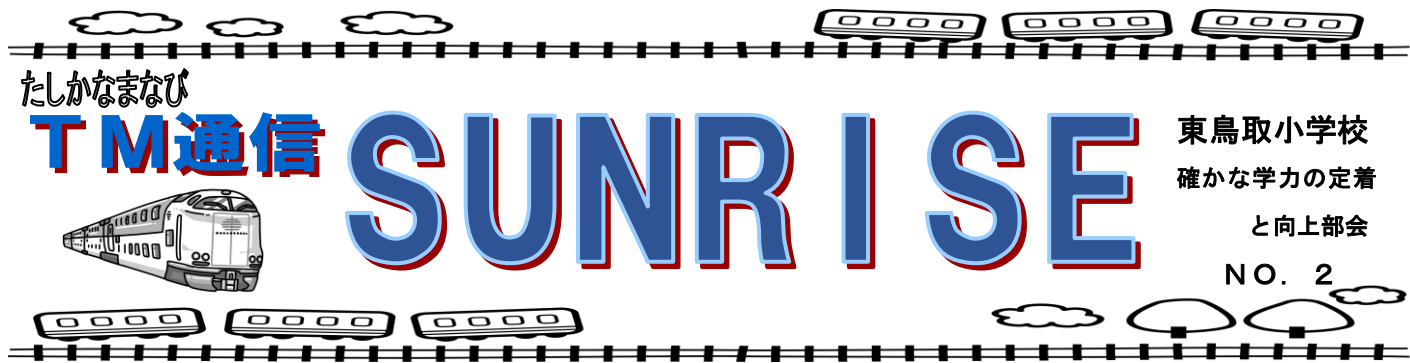




6月30日（火）4年 校内研究授業をふり返って

【単元名】『場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう』（全7時間）

【教材名】「一つの花」（光村図書／4年上）

【単元のゴール】「お父さんになりきって、ゆみ子に手紙を書こう。」

【本時の目標】

- ・ 叙述をもとに場面の対比表現に気づく。
- ・ 父の思いについて考え、友だちとの交流を通して多様な考えに気づき、考えを深める。

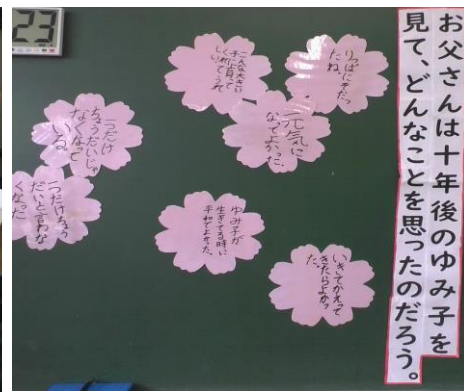
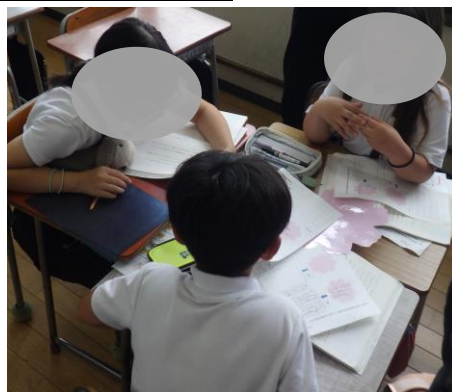
【本時の流れ】（本時5／7）

①前時までの学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。

十年後のゆみ子の姿を見たお父さんの思いを考える



| 7               | 6                     | 5                        | 4                      | 3                         | 2              | 1                | 時                                                                               |
|-----------------|-----------------------|--------------------------|------------------------|---------------------------|----------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 手紙を交流し、感想を伝えあう。 | お父さんになりきって、ゆみ子の手紙を書く。 | 十年後のゆみ子の姿を見たお父さんの思いを考える。 | お父さんが「一つの花」に込めた思いを考える。 | 登場人物の会話や行動から登場人物の気持ちを考える。 | 物語のせつなさをたしかめる。 | 「一つの花」を読み、感想を書く。 | 学習内容                                                                            |
|                 |                       |                          |                        |                           |                |                  | 単元のゴール<br>場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう。<br>単元のゴール<br>お父さんになりきって、ゆみ子に手紙を書こう。<br>単元計画 |



ゴールを明確にし、子どもたちと共有

グループ交流の様子

各グループからの考えを発表

②場面ごとに対比し、その変化や違い、お父さんのゆみ子を大切に思う気持ちを読みとる。

ゆみ子が「一つだけ」の言葉をくり返す戦争中と、平和になった戦後の家族の様子や情景を比べ、ワークシートに書く。

⇒グループで交流する。

③全体で共有する。 ④本時の学習をふり返る。

めざす子ども像、本単元のめあての設定、授業での児童の様子、成果と課題について

【授業者・学年より】

- ・ 根拠をもって話すことや、文章を書くことに難しさを感じる児童がいるという実態をふまえ、本時の展開を組み立てた。
- ・ 改善のために、「本文に立ち寄り、叙述に結びつける」、「毎日の宿題に音読をとり入れる」
- ・ ふり返りなど、短い文を少しずつ書けるようになってきた。
- ・ お父さんになったつもりでどんな手紙を書くかをゴールとし、そのために何が必要かという単元計画を考えた。
- ・ 話し合い活動の際、練り上げていくことに、課題を感じている。
- ・ プリントで「食べ物」「音」「花」「ゆみこの様子」「ゆみこの周りの様子」に分けていたのが、比べやすくなっていたと思う。

## 【研究協議より】

### 研究協議の柱

「ゴールに向かうための手立てとして、話し合い活動は有効であったか」

## 〔成果〕

- ・以前書けなかった子たちが、ずいぶん書けるようになっていた。
- ・観点分けもあったので、コスモスに書くときの理由や思いにつなげることができた。
- ・1、2場面と3場面の比較があることによって理由を持つことができていた。
- ・板書やワークシートが比較しやすい、捉えやすいものに工夫されていた。
- ・ワークシートを有効に使って、コスモスの理由につなげて聞くことができていた。
- ・大きく分けて4種類ほどの多様な意見が出ていたため、なぜそう思ったかを話す話し合い活動は友好的であった。

## 〔課題〕

- ・話し合い活動では、友だちの良い意見に触れた時に、自分の考えも大切に残せるようにしたい。
  - ・場面を見比べる活動に1時間とってもよかったのでは。コスモスの活動がもっと深まると思う。
  - ・話し合いの観点をしぼるなどして、話し合いが進むようにすればどうか。
  - ・めあてを子どもたちと確認する時間が欲しかった。
- 何のためにするのか、何をするのか目的意識を持たせることで、結果は変わってくるのではないかな。

## 【講師の先生からの指導助言（本単元・本時の学びのポイント）】

- ・単元のゴールは「場面を比べて読み、心に残ったことを伝えあおう」である。ゴールを明確化し、子どもたちと共有することが大事。
- ・考えを深めることができるグループ交流の活性化が必要  
⇒「話し合い活動」を「必然性のある活動」につなげることが大事
- ・単元の計画表は「教師と児童が見通しを共有すること」「児童の主体性を引き出すこと」
- ・叙述を大切にすることを意識すること。「根拠は叙述から」の徹底が国語科の要点。
- ・児童にとって自然な学習の流れになっているか、1時間の学習活動を考える上で大切な点。
- ・目的、ゴールの明確化の必要性
- ・話し合いは「考えが広がるものか」「考えが深まるものか」2点が大切。
- ・中心発問が指導事項に正対していてよかった。  
「お父さんは十年後のゆみ子を見てどんなことを思ったのだろう」が思考・判断・表現C（1）に対応している。
- ・話し合いが読みの深まりにつながったかという点で、さらに工夫の余地がある。叙述をもとに話せているのかということに、さらにこだわるとよい。  
⇒場面比較もワークシートにまとめたのも、叙述の要点のピックアップのためである。
- ・話し合いの有効性とは「仲良く話す」ではない。根拠をもって読みが深まったかに焦点を。
- ・ふり返りから、子どもたちの主体性、自ら学びを調整する自己調整の姿を見取る。